

## 『わたしたちのための祈り』 エペソ1:17-19

1:17 どうか、わたしたちの主イエス・キリストの神、栄光の父が、知恵と啓示との霊をあなたがたに賜わって神を認めさせ、

1:18 あなたがたの心の目を明らかにして下さるように、そして、あなたがたが神に召されていた望みがどんなものであるか、聖徒たちがつぐべき神の国がいかに栄光に富んだものであるか、

1:19 また、神の力強い活動によって働く力が、わたしたち信じる者にとっていかに絶大なものであるかを、あなたがたが知るに至るように、と祈っている。

## ○序論

今日、パウロのエペソの教会に向けた手紙の最初にある祈りを取り上げています。クリスチャンであり、救われてキリストの体、教会につながっている人々のために、とりなし祈っていたのです。

より霊的で健全なキリスト理解が与えられますようにと。

パウロは優れた教師でした。ちょっと理屈っぽい表現はあっても、正しい教えでした。パウロ自身もよくわかっていたことと思いますが、…。通じない、理解されていない、また認識が一致しない…という経験があったようです。

じゃあ、どうするのか？ パウロはまずとりなして祈ったのです。神さまの助けを仰いだのです。そして神さまが、健全な理解や、気づきや、諭しを与えてくださるように…という風に。それが今日お読みした切々とした祈りの言葉であることを覚えていただきたいのです。

そしてこのパウロが示す、霊的理解の扉は、一言でいうなら、知らないでいたら損！ いや知るならば、どれほどわたしたち見えるものが変わるか！？そんな事柄です。この年、ぜひ知ってもらいたい、覚えてもらいたい、そう願う祝福に、わたしたちがあずかるように…というパウロの祈りに短く見とおきましょう。

## ○本論

## I. キリストをよりよく知ること

## リビングバイブル

:17 どうか、主イエス・キリストの神、すなわち栄光の父が、あなたがたに知恵を与えて、キリストがどのようなお方か、何をしてくださったかを、正しく、はっきりと理解させてくださいますように。

同じ箇所を新共同訳をお読みします。

1:17 どうか、わたしたちの主イエス・キリストの神、栄光の源である御父が、あなたがたに知恵と啓示との霊を与え、神を深く知ることができるよう

にし、

最初にお読みした訳でも表されている、知恵と啓示の霊、つまりわたしたちを諭し、気づきを与えてくださる聖霊なる神さまの働きが、イエスさまを理解するために、わたしたちには必要なのです。

そういう意味で、わたしたちには神由来の「啓示」神さまから語られ示される神ご自身の言葉、諭しが必要なのだ…ということです。

## Ⅱ. 神由来の希望を知ること

リビングバイブル訳

:18 また、心にあふれるほどの光が与えられて、神があなたがたを召して与えようとされる将来を、はっきり見きわめることができますように。

新共同訳

:18 心の目を開いてくださるように。そして、神の招きによってどのような希望が与えられているか、聖なる者たちの受け継ぐものがどれほど豊かな栄光に輝いているか悟らせてくださるように。

ここ数年、また十数年を見ても、いろいろな意味で暗く、不安な時代の雰囲気はわたしたちの世界を覆っている、そんな時代の流れを感じさせられています。

はっきりと言いたくないけど、このまま各地での争いはどんな風になるのか、今傷ついている人たち、悲しいんでいる人たちがたくさんいて、たとえ終戦を迎えても、たそこで失われたものの大きさをどうすることもできない。いや次の火種になりはしないか…と。

新たな紛争が、さらにどこかで起こる可能性もあります。

...

聖書は、わたしたちの心の目が開いてくれます。わたしたちにはこの世の標準では測れない、”天に向かって突き抜けた希望”が与えられているということを見せてくれているのです。それが御国の希望とよばれるものです。

この希望は、恵みの神さまが下さる約束です。

わたしたちは「神の子」と呼ばれて、いただく神の御国の希望に生きる、祝福された存在とされているのです。

## Ⅲ. 神の力の絶大さを知ること

ここでは、先ほど読んだ口語訳だけで

1:19 また、神の力強い活動によって働く力が、わたしたち信じる者にとっていかに絶大なものであるかを、あなたがたが知るに至るように、と祈っている。

わたしたちの時代、胃や歴史を見るといつの時代でも、世界中が自分たちの圧倒的な軍事力、経済力、またさまざまな力を主張して、周囲を圧倒しようとする、そんな時代です。

かつて一大王国を建て上げたイスラエルの王ダビデは、その信仰による神体験から、こう語ります。

詩編62:11-13（新共同訳） 暴力に依存するな。搾取を空しく誇るな。力が力を生むことに心を奪われるな。…力は神のものであり 慈しみは、わたしの主よ、あなたのものである、と。ひとりひとりに、その業に従って あなたは人間に報いをお与えになる、と。

「力は神のものである」。わたしたちはしばしばこの神さまを求めることにおいて、頼り切ることにおいて、失敗してしまう弱さを経験しています。

そんなわたしたちはダビデの姿を示されます。

詩編62:2-3 わたしの魂は沈黙して、ただ神に向かう。神にわたしの救いはある。神こそ、わたしの岩、わたしの救い、砦の塔。わたしは決して動揺しない。

今年、わたしたちはぜひ、この神さまの絶大な力を体験したい、知りたいと願います。これは、わたしたちのためにもある、あのパウロのとりなしの祈りのもとにあるのです。

## 〇さいごに

先日、ひとりの信仰者の訃報世界に流れました。ジミー・カーター元アメリカ大統領。100歳で天に召されたということでした。彼について以前に紹介したことがあります。

引退後に「史上最強の元大統領」と呼ばれるほど平和貢献や人権擁護運動に尽力し、ノーベル平和賞を受賞した人です。

引退後ご自分の出身の村の子どもころから通っていた教会で日曜学校の教師を続けて子どもたちに福音を伝え続けていた…。

この人が、自伝の中でこんな言葉を記しています。

「最も重要なのは、現在でも信仰者の人生をつくり変えてくださるイエスというお方である…」と。

その上でこう記しているんですね。

「日曜学校の生徒たちは、クリスチャンであるとはどういうことかと、よく質問する。私の最良の説明は「クリスチャンとはイエスが自分の救い主であることを告白すること。そしてイエスが身をもって示された諸々の本質を得ようと努力する人のことである」というものだ。（ジミー・カーター自伝『信じること働くこと』）

アーメンです。

この年、わたしたちの祈りと願いは、知恵と啓示の霊、つまり聖霊によって、イエス・キリストとその御言葉と、その力のありのままを経験することができることです。

1:17 どうか、わたしたちの主イエス・キリストの神、栄光の父が、知恵と啓示との霊をあなたがたに賜わって神を認めさせ、

1:18 あなたがたの心の目を明らかにして下さるように、そして、あなたがたが神に召されていた望みがどんなものであるか、聖徒たちがつぐべき神の国がいかに栄光に富んだものであるか、

1:19 また、神の力強い活動によって働く力が、わたしたち信じる者にとっていかに絶大なものであるかを、あなたがたが知るに至るように、と祈っている。